

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校である。小規模特認校制度による児童の受け入れがあり、全校児童は22名である。約半数の児童が市内全域からバス通学をしている。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識し取り組み、少しずつ表現できるようになってきている。しかし、在校生も多くの転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 日立特別支援学校との交流学习（1・2年生）
- イ なかよしフォーラム（人権集会）の実施
- ウ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）
- エ 地域の高齢者福祉施設との交流学习（5・6年生）
- オ サケの飼育と地域の環境学習（3年生）

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

1年生の児童は初めての交流なので、とても楽しみにしていた。2年生が昨年度の経験を活かして、学校紹介や名刺交換やゲームなどを一生懸命に考え準備を進めた。当日は、音楽に合わせてダンスやゲームを楽しむことができた。始めはとても緊張をしていたが、友だちの顔や反応を見ながら、思いやりの心を持って接する姿があった。終わりに近づくとも本校児童は名残惜しそうにしていた。いつまでも「ありがとう」と声をかけていた。3年生になると交流が途切れてしまうので、3年生以降も児童間のつながりを深めるために、今後も継続して手紙などの交流を続けていきたい。より深い心の交流ができるように、継続した実施が必要と感じた。



(2) なかよしフォーラム（人権集会）の実施

5・6年が中心となって集会の内容を考え、みんなで仲良く生活ができるように、学級毎に話し合いを行った。話し合いをもとに「なかよしフォーラム」を行い、学級の目標や自分の目標を分かりやすく劇にした発表や大きく掲示を行うなど、工夫して発表を行った。学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて、自分たちで考えた劇等を通して、いじめについて考えることができた。「気持ちは仲良くしたいと思っているが、強い言葉が出てしまう」や「低学年に優しく気持ちを伝えたい」など、自分の言動を振り返り、学級や他の学年の友達と仲良くするためにはどうしたらいいか、考えるよい機会となった。

(3) 豊かな体験活動の展開

ア みんなでランチ（年間3回実施）

全校児童と教師が4班に分かれ、会話をしながら給食を食べる活動である。健康委員会が中心になって準備・進行を行い、班ごとに食育クイズを行うことで連帯感がでている。小規模特認校制度による転入児には、他の児童に質問をしたり話を聞いたりする機会となっている。小・中学校合同給食も2回実施した。リンゴに関する合同授業や体育祭・文化祭など、交流学习を円滑に進める良い交流となった。

イ 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、縦割り班による清掃活動や田植えや稲刈り等を行っている。年度当初に、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して教師側が4つの班に分けている。清掃では、場所をローテーションしながら取り組み、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れていったりする姿もよく見かける。また、上級生が、優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。

ウ あいさつ運動や奉仕活動の実施

通学班でのあいさつ運動や学年花壇の整備を全校で取り組んだ。今年はバス通学者もあいさつ運動に参加した。様々な学習でお世話になっている山水苑や交流センター等に、プランターの花を届けた。お世話になっている方々に、感謝の気持ちを行動で表わすことができた。

エ 学級活動の話し合いやありがとうカードの実施

各学級が目標を掲げてみんなが仲良く生活できるように、学級毎に話し合いを行っている。様々な話し合いを行う中で、司会や記録を児童全員が体験して、誰もが学級の一員として意見を述べたり共有したりしている。また、学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて考えることができるようになってきている。毎月「ありがとうカード」の記入を行い、友人に直接手渡したりお互いの友達のよさや自分のよさに気づいたり、相手への思いやりや自己肯定感を高める大切な時間となっている。

（4）地域の高齢者福祉施設との交流学习（5・6年生）

5・6年生の総合的な学習の時間に毎年地域の高齢者福祉施設「山水苑」との交流をしている。高齢者に対する思いやりや共に生きようとする心の育成がねらいである。高齢者への接し方を事前に調べたり友達と話し合ったりして理解を深めたことで、自ら進んで高齢者にかかわり主体的に活動することができた。車椅子や食事介助模擬体験では、積極的に質問を行っていた。この活動を通して、一人一人が高齢者の方々を大切に思い、相手の立場に立って一生懸命に考えたり、戸惑いながらも進んで接したりする姿が見られ、心の変容を感じた。

（5）サケの飼育と地域の環境学習について（3年生）

中里小の近くを流れる里川の水質や生き物について学習した後、3年生がサケの飼育をして全校児童で放流を行っている。友達と協力して小さな卵から育てることで、サケの成長を楽しみしながら、サケの成長を通じて環境や命の大切さを学ぶことができた。

3 成果

- ・人権集会や人権コーナーの活用により、友達のよいところに目を向けて理解を深めて他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情も高めたりすることができた。今後こうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

人間関係づくりが苦手な児童も多く、行事等楽しい場面で自分中心の考え方や行動をしてしまうことがある。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的、継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

児童同士の「ありがとうカード」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示した。特別支援学校との交流会や隔年毎に取り組んでいる高齢者福祉施設での交流の写真を掲示し、児童に啓発を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



お年寄りとの交流



ありがとうカードで気持ちを伝えよう



人権メッセージ



なかよしポスター